

# 文化をめぐる人文と工学の研究グループ

[領域横断による工学の新展開]

生産技術研究所 研究グループ

Research Group on Culturally-Informed Engineering

<https://www.cue.iis.u-tokyo.ac.jp>

## 生研がもつ強み

- 本学における産学連携活動を先導
- 工学のほぼ全ての領域をカバー
- 研究室数が、組織の一体的運用に適切な「ダンパー数 (=150)」に相当

## これまでの取り組み

- 2019年7月より、EMP修了生有志と共に定期セミナー「文化×工学研究会」を開催
- 感覚や文化・芸術など、幅広いテーマについて学内外から講師を招聘
- 2020年4月より、所内研究グループを正式に発足し、活動を更に本格化

## 「文理実」三者協働体制

- 産学連携を先導してきた生研の強みを活かし、文理融合の取組に、「中間組織」として社会の実務家を加える (EMP修了生を含む)
- 三者が各々の機能をも向上させつつ良循環をなす、従来の大学の発想を超えるダイナミックな着想と協働の場
- 活動の常態化による文理融合人材の育成

## 工学・理学

### 特徴

- 最先端研究・基盤技術
- 産学連携の先導

### 機能向上

- 文化/感性を生かした計測を超える工学へ
- 発想の多様化によるイノベーション創出

## 人文学

### 特徴

- 多様な着想・発想
- 中長期的な視点

### 機能向上

- 文系研究の社会実装
- 学生の就業機会の多様化

## 文系研究者

### 文理融合 2.0 @IIS

- 有機的ネットワーク
- 全体を俯瞰
- 文理融合・社会連携の触媒
  - 日常的なセミナー等の開催
  - タイムリーなプロジェクト展開

## 生研研究者

プロデューサーとして機能

## 実務家

含EMP修了生

## 社会・文化

### 特徴

- 社会実装、ビジネス視点
- 感性や文化的伝統による“総合力”
- 専門外への壁が低く触媒の機能

### 機能向上

- 各業界を超えた人的ネットワーク
- 新たな社会連携・産学共創
- リカレント教育

- 複雑且つ複合的課題の抽出・解釈と解決策の提案
- 新たな価値観の創出

意志ある未来の選択

本学全体における文理融合・社会連携の触媒役・駆動力

所属研究者：石井和之 教授、今井公太郎 教授、川添善行 准教授、志村努 教授  
戸矢理衣奈 准教授、本間裕大 准教授、松永行子 准教授、野城智也 教授

(注) 本研究グループにおける「文系の研究者」とは本学教養学部における「文系」領域の研究者を指す

